

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170100632		
法人名	有限会社 佑紀苑		
事業所名	グループホーム 佑紀苑佐賀		
所在地	〒849-0911 佐賀市兵庫町大字若宮野中2125番地1 (電話) 0952-98-3058		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝1丁目1224番2		
訪問調査日	平成 20年3月21日	評価確定日	平成 20年4月25日

【情報提供票より】(平成 20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤 3 人, 非常勤 12 人, 常勤換算	人

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート葺平屋建て	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	200 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	4 名	要介護2	3 名			
要介護3	2 名	要介護4	名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	81 歳	最低	74 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	つのだ内科クリニック・こうすけ歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

郊外の田園風景が広がる閑静な場所に立地している。建物はやわらかい色調の木造平屋建てで広い苑庭を有している。種々の樹木や花が植えられ、四季折々の自然を感じることができる。地域住民との交流が盛んに行われており、職員も地元の人が多く、入居者は地域の一員として安定した暮らしができています。また、同業種間のネットワークが緊密で合同研修会、相互訪問が実施されており、入居者同志の交流も行われている。職員の異動が少なく、介護職の他、看護師、栄養士などの専門職が配置されており、それぞれの領域で専門性を発揮されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は職員に伝えられ、全員で改善に向けて取組まれている。家族の意見や要望が出せる場面づくりなどについて改善が見られる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員がサービス評価の意義や目的について理解を深め、全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回奇数月に開催されている。ホームからは入居者やサービス提供の状況、評価への取組み状況等について報告し、自治会からは地域情報の提供があるなど双方向的な会議になっており、そこでの意見や情報をサービスの向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	年2回家族との話し合いの場を設けて管理者や職員に話しやすい雰囲気づくりに努め、意見箱も設置されているが、ホーム以外の外部者にも家族の意見、苦情、不安等を表せる機会や場があることを家族に説明するなどの取り組みを期待したい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会に加入し、地域行事の缶ひろいや敬老会などに参加し、春秋のお彼岸の伝統行事である「おへんろめぐり」では立ち寄り場所になっている、近くの観音様まで出向き、お接待に参加している。また、ホーム行事のクリスマス会や敬老会には子どもクラブや老人会から参加があるなど地元の人々との交流が密に行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中の一つの家として、やすらぎと安心の楽しい生活を私たちとご一緒しましょう」という地域密着サービスの意義を踏まえた独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関と事務室の見やすい壁面に理念をしたためた額が掲げられており、管理者と職員は日々理念を確認し合って共有し、理念の実践に向けた業務の遂行に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入し、地域行事の缶ひろいや敬老会などに参加し、伝統行事である「おへんろめぐり」では立寄り場所にもなっている。ホーム行事のクリスマス会や敬老会等には子どもクラブや老人会から参加があるなど、地元の人々との交流が密に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価の結果はミーティングで伝え、全職員で改善策を検討して実施されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回奇数月に開催されている。ホームから入居者やサービス提供の状況、評価への取り組み状況等についての報告を、自治会から地域情報の提供があるなど双方向的な会議になっており、そこでの意見や情報をサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者の運営推進会議への出席はあるが、それ以外に市担当者と行き来はあまりなく、関係づくりや共に課題解決を図っていくような取り組みはまだなされていない。	○	市にホームの実情やケアサービスの取組み等を折に触れ伝えるなど、市担当者との行き来を密にしながら情報の共有に努め、市と共に地域に即したサービスの質の向上を目指す協働関係を築いていかれるよう期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問が頻繁に行われており、その機会に、管理者から個人ごとに入居者の暮らしぶりや健康状態等について報告がなされている。個人ごとのアルバム帳も作成されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族との話し合いの場が設けられるなど、管理者や職員に話し易い雰囲気づくりに努め、意見箱も設置されているが、ホーム以外の外部者にも表せる機会や場があることを家族に説明するなどの取組みはまだなされていない。	○	家族は意見、不満、苦情を言い出し難いことを理解して、管理者や職員以外の外部者に表せる機会や場を設けたり、外部の相談窓口等についての説明がなされるよう期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、入居者と職員の馴染みの関係を保つことを重視し、まず職員の働きやすい環境づくりに努め、ほとんどの職員が開設当時の職員である。もし離職等があっても馴染みの関係による支援が継続できるよう配慮されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者及び職員は段階に応じた内外の研修を受けている。職員研修会は毎月開催されている。働きながらのトレーニングは接遇のあり方を中心に進められている。外部研修の報告は職員研修会で伝達、周知が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の5社でネットワークを構築し、2ヶ月に1回合同研修会が開催されている。また、年に2～3回職員の相互訪問が実施され、意見交換が行われており、サービスの質の向上を目指す取組みの一つになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が安心して、納得してサービスが利用できるように、利用開始前に本人や家族による見学や、3日間の体験入所をしてもらうなど、職員やサービスの場に徐々に馴染みながら本格的な利用に移っていきけるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者一人ひとりのライフスタイルや得意分野をよく把握し、常に人生の先輩として尊重した態度で接しており、喜怒哀楽を共にしながら学び、支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや、暮らし方の希望等が表出しやすい雰囲気づくりに努め、入居者がそれぞれにその人らしい暮らしができるように支援している。表出が困難な入居者は、日々の関わりの中で言葉や表情からそれとなく真意を確認をするようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について本人や家族からの要望を聴き、職員全員で話し合い、要望を反映させた個別的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは6ヶ月ごとに行っているが、見直し以前に本人、家族の要望や状態の変化が生じた場合は、本人、家族、職員で話し合い、実情に応じた新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者や家族の要望により、外出支援、買物支援、通院介助などが行われている。訪問理美容も導入されている。また、入居前の体験入所等も独自に行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切に、馴染みのかかりつけ医で継続して受診できるよう支援している。看護師が配置されており、家族と相談しながら、かかりつけ医との話し合いや情報のやりとりを通して関係づくりに努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に係る指針」及び「ターミナルケア(見取り介護)の指針」が定められている。本人及び家族に説明がなされ、同意を得ている。今後も話し合いを繰り返し、かかりつけ医も含め全員で方針を共有するよう努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎月のケア会議で、入居者の誇りやプライバシーを損なうような言葉かけや対応をしないことを全職員に徹底させている。日々の関わりの中でも管理者がチェックする体制が取られている。個人情報の保護についても留意した対応がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは大まかにあるが、入居者の体調に配慮しながら、その日、その時の気持ちを尊重してそれぞれのペースで過ごせるよう支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物、野菜を切ったり、盛り付けをするなど、入居者の個々の力を活かして職員と一緒に準備し、一緒に食事を楽しみ、後片付けも共に行うという一連の流れの中でさりげない介助が行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴したい人、一番風呂や終い湯を好む人など入居者のそれぞれの希望やタイミングに合わせて入浴が楽しめるよう支援が行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	半数以上の入居者が自分の居室を掃除されている。そのほか食事の手伝い、ゴミ捨ての日に一輪車で運ぶ人、毎朝カレンダーをめくる人など入居者の役割意識が高い。また、自発的に書道、百人一首、ぬり絵などを楽しむ人もあり、主体性を尊重した支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には入居者一人ひとりの体調に配慮しながら希望にそって散歩やドライブに出かけている。周囲は広い田園地帯であるので四季折々の風景を楽しむことができる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員は鍵をかけることの弊害を理解し、日中は鍵をかけない見守りによるケアが実践されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回利用者と共に、夜間、昼間を想定した消火避難訓練が実施されている。地元消防団とは、かねてから協力体制ができており、来所の上入居者の車椅子使用状況や手引き歩行が必要な人の状況、避難経路の確認をしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当ホームの栄養士の献立によりバランスの取れた食事が提供されている。一日の水分摂取量もチェック表に記録されている。減塩、減糖を必要とする人もあり、一人ひとりの状態に応じた支援がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い居間は、自然の光をたっぷり採り入れて明るく、調理以外の物音もなく静かで、折々の花が飾られ、雛飾りも置かれていて生活観や季節感が漂っている。壁面には日めくりのカレンダーや入居者の絵や書などの作品が貼ってありゆっくりとくつろげる空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、使い慣れた家具や馴染みの品が持ち込まれ、思い思いに居心地よく過ごせるよう家族と話し合ってレイアウトされており、それぞれに個性的な居室になっている。		